

ま え が き

平成14年度から完全学校週5日制が導入され、翌平成15年度から新学習指導要領が高等学校において実施されるなど、高等学校教育は新たな時代を迎えようとしています。

国際教育到達度評価学会（IEA）が実施している国際数学・理科教育調査によると、我が国の生徒の学力は国際的にみてトップクラスであるが、数学や理科が好きであるとか、将来これらの教科で学んだことを使う職業に就きたいと思っている生徒の割合が国際的に見て低レベルである等という問題点が指摘されています。

また、経済協力開発機構（OECD）の「生徒の学習到達度調査（PISA）」では、読解力や数学、理科の応用力は世界でトップクラスであるが、読書は嫌いで学習時間が最低レベルであったことが分かりました。

遠山敦子文部科学相は、1月17日、「確かな学力の向上のための2002アピール『学びのすすめ』」と題するアピールを発表しました。「学ぶ習慣」づくりに向け細かい点にまで踏み込んだ上で、「理解の進んでいる子」をさらに伸ばすための発展的学習や、きめ細かな指導で、基礎・基本や自ら学び自ら考える力を身に付けることを求めています。

岐阜県教育委員会では、基礎学力の定着と、優れた分野の学力の伸長を図る教育活動を展開するとともに、英語コミュニケーション能力など21世紀の岐阜県を担う児童生徒の学力の向上を図るため、平成13年度より「学力向上プラン」「英語コミュニケーション・パワーアッププラン」を進めています。

特に、高校数学分野では、8月6日～8日の3日間、県民ふれあい会館で、「高校数学セミナー」を開催して、最近解明された「フェルマーの定理」を解決するにあたる経緯と証明の講義や演習等を実施しました。また、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため「つまずき解消委員会」を開催して、生徒が分からなくなったとき、どこでつまずいたかを発見する「診断プログラム」と、そのつまずきを解消するための「学習補助教材」の開発にあたってきました。今年度は、方程式と不等式の分野の「学習補助教材」の作成に取り組み、いくつかの誤答例を予測し、そのつまずきの原因を分析しました。本冊子は、その成果をまとめたものです。

なお、その他に、2次方程式、確率、三角関数のコンピュータを利用したチュートリアル方式の自主学習教材「まっくんの研修旅行」を掲載しましたので、活用願います。

今後、「診断プログラム」と「学習補助教材」をホームページに掲載しますので、生徒一人一人が自ら意欲的に活用し、自ら学ぶことにより基礎学力を向上させることを期待しています。

終わりにになりましたが、作成に協力いただきました委員の方々に対し、心から感謝の意を表します。

平成14年3月

岐阜県教育委員会

学校支援課長 古澤 哲男